

# 地域とつながる京都市立大学のCOC+

## 地域創生フィールド演習 I・II

科目等	教養教育科目/総合教育科目(選択) 2回生配当 単位:各1単位(前期・後期)
概要	京都市中・北部の各地域で、地域資源を生かした様々な事業を展開している「地(知)の案内人」をグループ単位で訪問し、それぞれの場で2泊3日の体験を通じて地域で生きる知恵と工夫を学ぶ。
目標	① 地域の自然と文化の中で体験し、人間として生きる基本を学ぶ。 ② 自分の潜在能力を発見するなど、自分らしい生き方を探求するきっかけをつかむ。 ③ 交流と対話を通じ、地域の未来を考える。
演習プログラム	地(知)の案内人が企画する35の演習プログラムの中から希望に応じて選択する。 農業(4)、林産業(1)、漁業(1)、六次産業(2)、農村体験(3)、自然体験(3)、 建築・地域デザイン(5)、木工(1)、サービス・コミュニティ(8)、食品開発(2)、 伝統工芸(2)、商品開発(1)、鉄道(1)、メディア(1)
時期・期間	平成30年5月～平成31年3月の間で2泊3日

### 学生のレポートから

- ・地域には「人、自然、ものづくり、文化」など可能性がたくさんある。
- ・地域に対するリスペクトこそが地域をかたちづけていると思った。
- ・都会も田舎も等価値。田舎や地域はなくてはならない存在だと思った。
- ・田舎は不便で少子高齢化というマイナスイメージを抱いていたが、子どもたちも大人たちもやりたいことがあってイキイキとしている。カッコいいな、こんな風になりたいな、と心から思った。
- ・地方公務員になって地域の過疎化やまちづくりに関わってみたいと思った。
- ・地域を知れば知るほど簡単に何かを提案できるものではないということがわかった。
- ・美しい景観や温かい人たちとのふれあい、それらを守るために自分たちに何ができるかを考えていきたい。
- ・自分自身の生き方を深く見つめ直すことができた。
- ・人生において大切なものを深く考えさせられ視野が広がった。

### 平成29年度の演習の様子 34の拠点に111名の学生が参加



(株)エチエ農産・畑作業



田舎舎・薪づくり



(有)アリアソシエイツ・木工教室



(株)きぐすりや・上げ松準備



ニシオサプライズ(株)・茅葺き作業



伊根浦ゆくり観光の会・漁業体験

演習の様子を学生有志による「COC+学生チーム」がプロモーションビデオとして作成しました。  
「京都市立大学 地域創生COC+教育プログラム」  
ホームページまたはQRコードからご覧ください。



山里れすとらん四季の詩・食品加工



黒谷和紙協同組合・紙漉き体験



宮津メディアセンター・動画制作